

御前山ビオトープ通信

平成22年10月24日

第30号

編集： NPO「美しい田園21」 清野 

メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

目次

- 1 御前山小学校の稲刈り 9月30日(木)
- 2 脱穀収穫祭と第3回目の育成活動
10月21日(木)

【案内図】



1 御前山小学校の稲刈り

今年のビオトープ田んぼは例年の古代米を一時休憩して品種をコシヒカリに変更したこと、記録的な猛暑が続き作物の生育も例年より早いために、9月30日(木)に稲刈りを行うことにしました。

ところが、前夜から雨が降り出し、朝になってはかなり微妙な判断でした。学校とも相談し、後日の日程調整も難しそうなることから、小雨決行とすることになりました。

幸い、作業が始まった9時頃には雨もすっかり上がり何とかかなりそうな空模様になりました。桧山集落の皆さんの手際のいい指導協力で、一時間ほどで無事稲刈りは完了しました。

その後、溪流で手足を洗い、階段教室で休憩しながら「田んぼの学校の講義」として、「お米と田んぼの話」「ビオトープの植物の話」などをしました。

子供達はやはり校外学習が楽しそうで、稲刈り後の田んぼでイモリやカエルを捕まえては大喜びです。終了後は皆元気にバスまで歩いて帰りました。

その直後に雨が降ってきて、午後からはさらに本降りになってきたので、本当に間一髪の絶妙のタイミングで稲刈りが終了しホッとしたところです。

ビオトープはちょうど「イヌショウマ」の花が満開で静かな秋の風情でした。



稲刈り終了!



子供が捕まえたイモリ



田んぼの学校

2 脱穀収穫祭と第3回目の育成活動

10月21日(木)、先月刈り取った稲の脱穀作業と併せて、本年第3回目のビオトープ育成作業を行いました。あいにくの小雨模様となってしまいましたが、遠くは東京、埼玉等を含めて9時過ぎには百名以上の参加者が集まりました。今回は子供達が大勢参加するので風邪をひかせては大変と、テントなど万全の準備をしました。冒頭、農政局尾崎事業所長からビオトープの経緯や御前山ダムが完成し来年湛水が始まることなど開会挨拶がありました。

【足踏み脱穀】年配者には昔懐かしい足踏み脱穀機、千歯こき、トウミなどを用意し皆で古代農業体験です。子供達は最初は恐る恐る始めましたが、コツが解ってくると楽しくなってきた大騒ぎです。ただ千歯こきは腕力も必要で、足踏み式の便利さを実感しました。大人も初体験する人がいましたが、皆真剣な顔つきで完全にはまった者もいたようです。



千歯こき



手前：池にナガエミクリ移植
左：チップ反転
奥：河川改修と暗渠



暗渠の籾殻散布

【希少種の株分け】移植した希少種は皆順調に生育していますが、危機管理のために株分けして規模を拡大し分散させることにしました。「タコノアシ」や「アギナシ」は圃場全体に株分けしますが、湿田なので足を取られて泥だらけです。もっと大変なのは「ナガエミクリ」です。中池に株分け移植しましたが、水深があり繁茂したアシの除去が必要で、若手メンバーが献身的に犠牲となり

胴長靴姿で挑戦して無事終わりました。

【関東流治水】ビオトープ最上流に位置する小川の蛇行部が大雨で浸食し、かなり危険な状態だったので、河川修復作業を実施しました。周辺山林の間伐材を活用して木杭を製作し現場で組み立て施工します。工法は前回経験済みなのですが、木杭の打ち込み玉石積みなどかなりの重労働でしたが立派に完成しました。

【粗朶暗渠】春に子供達が移植したカタクリ畑は掘削してみると地下水位が高いことが判明したので、急遽暗渠排水を施工すること

にしました。本管上に間伐材の小枝、籾殻と敷き詰め転圧して本格的に仕上がりました。暗渠は始めてですが、メンバーの中に正しい知識を持った土木技術者がいたので頼りになりました。

【チップ反転】遊歩道はダム湛水敷地内の立木処分の一環して数十cmの厚さでチップ舗装しており、この5年間は一度も草刈をする必要がありませんでした。しかし時間の経過で表面が分解し草が生えてきたことから、試験的に反転舗装してみることにしました。効果は来年にならないと判明しませんが成果を期待しているところです。

幸い雨も小康状態で、全ての作業も順調に終了し、昼には地元で捕獲した猪が出てきて「シシナベ」にオニギリなどをいただきました。

また、今回は里山の恵みとして、古代米、竹酢液、竹炭などを展示したところ思いのほか好評で全て処分され、沢山の基金カンパも集まりありがとうございました。

